

ピカルディー美術館へ。一時間で美術史の全貌をひもとくか、ルフェーヴルの《ゴダイヴァ夫人》を前に夢想を巡らす、午後のひとときを過ごすか。ナポレオン3世の妻ウージェニーに捧げられた「皇后の間」の壮麗さに酔い、ソル・ルウィットの多彩でグラフィカルな装飾に時を忘れ、ミイラの実物と対面するもよし、ジェリコーのオリジナルに劣らぬ《メデューサの筏》の模写に圧倒されるもよし。家族で、友人と、ひとりで、あるいは知識豊かなガイドと共に、テーマに沿って鑑賞するか、隅から隅までじっくり堪能するか...。最良の楽しみ方は、あなた次第です。









4

アミアン地図





10

友達と旅する アミアン



6

ふたりで旅する アミアン



19

アミアンへの アクセス

お問合せ



アミアン・メトロポール観光会議局 Amiens Métropole Tourist and Conference Office

80010 Amiens cedex 1 + 33 (0)3 22 71 60 50

<u>/isit-amiens.com</u>

オープン日時 月〜土: 09:30 〜 18:30 (10月〜3月は18:30閉館) 日曜日: 10:00 〜 12:00、14:00〜17:0 Stéphanie Cadet アミアン観光会議局

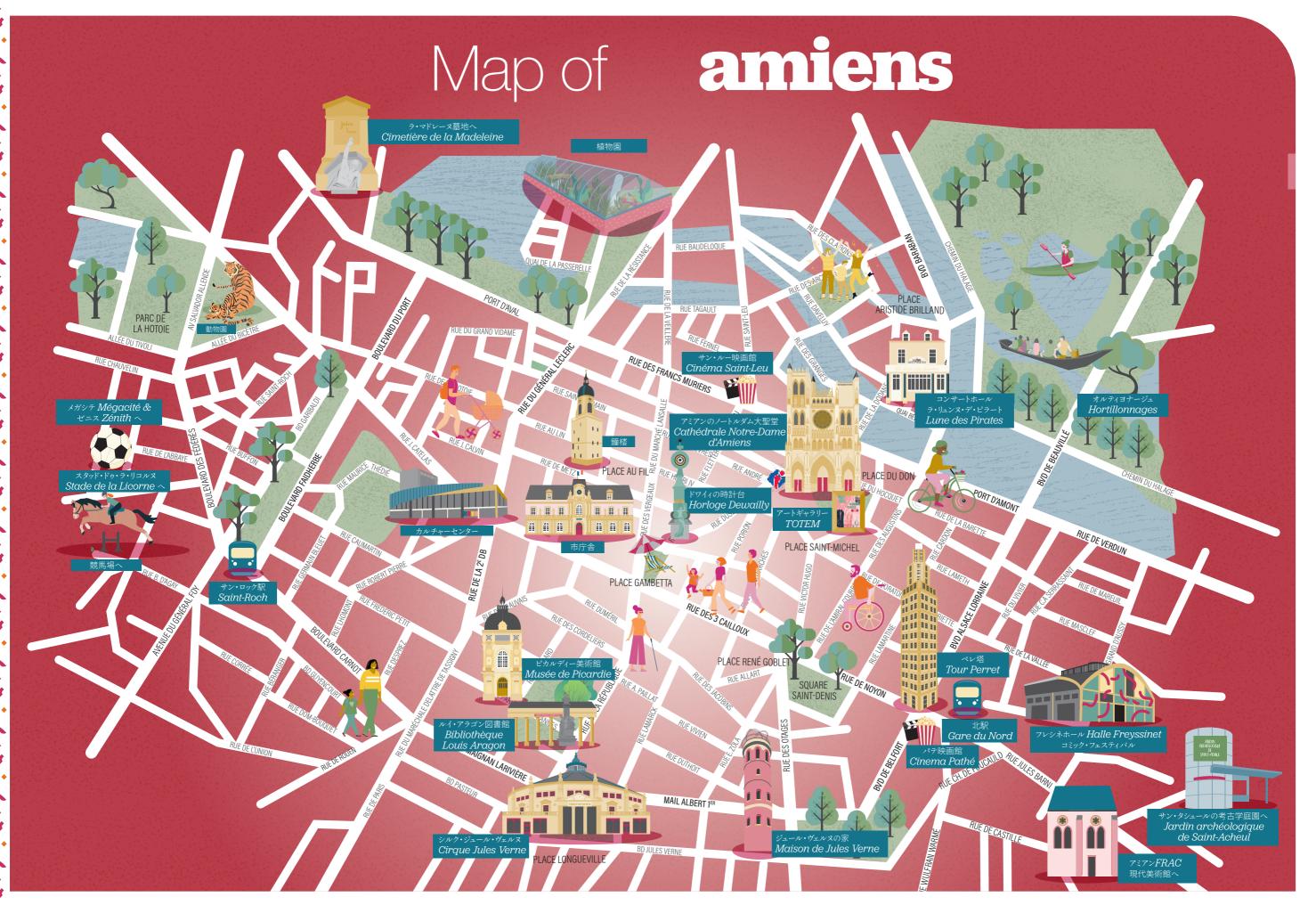
アミアン観光会議局 マーケティング&広報チーフ +33 (0)3 22 71 60 53 s cadet@amiens-metronole

Myriam Underwood アミアン観光会議局 グローバル・プロモーションマネージャー

+33 (0)3 22 71 60 55 m.underwood@amiens-metropole.com

表粃写真:Charlotte Persohn - @cp.photographi @unkeydelarose グラフィックデザイン:elisemathieu.fr NATURALLY FRIENDLY

NATURALLY FRIENDLY



[4]

素直なふたりになる旅

パートナーとふたりで歩む日々は(いつでも)悠然と流れる大河のように、穏やかとは限らないもの。北の小ヴェニス、アミアンには、すでに幾度も嵐を乗り越えてきたふたりにも、結ばれて間もないふたりにもおすすめの、ロマンチックな週末を過ごすすべてがあります。

水上の庭オルティヨナージュ Hortillonnages を周囲に望むジット、あるいはアパルトマン、はたまたシックなホテルに荷物を置いたら、さあ、出かけましょう。もちろん、ベッドでお昼寝もできますが、まずは美しいアンリヴィル地区 Quartier d'Henriville を目指します。サン・マルタン教会 Église Saint-Martin (19世紀のロマンチックな雰囲気ですが、ヒュー・グラントの映画にも登場します)の前からはじめる街歩きはいかがでしょう。

ジュール・ヴェルヌの家 Maison de Jules Verneにジュール・ヴェルヌ通り、そして常設のサ ーカスであるシルク・ジュール・ヴェルヌ Cirque Jules Verne へとゆっくり散策。街のあちらこちら でその名に出会う大作家ヴェルヌは、アミアンの 街と妻オノリーヌをこよなく愛していました。小休 止はピカルディー美術館 Musée de Picardie でどうぞ。時間はたっぷりあります。ウジェーヌ・ド ゥヴェリアの油彩《恋文》からオーギュスト・デュ モンの彫刻《愛に苛まれる魂》にいたるまで、ここ には愛が溢れています。お好みは分かれそうです が、地下にはアミアン近郊のリヴリで出土した、生 殖と豊穣の守護神プリアポスの彫像も。懐中電灯 を片手に館内を巡る、密やかで胸踊るナイトツア ー「ロンド・ド・ニュイ Ronde de nuit」に参加す るのもいいかもしれません。

ふたり手に手をとって、ドワイィの時計台Horloge Dewailly を飾る春の寓意像マリー=サン=シュミーズMarie-sans-chemise (ブラウスを脱いだマリー)を鑑賞します。かのサン=テグジュペリが「愛とは、お互いに見つめ合うことではなく、一緒に同じ方向を見つめることである」と言ったように、ふたりで同じ方向をご覧ください。ほら、アミアン大聖堂ことノートルダム大聖堂Cathédrale Notre-Dameが見えます。大聖堂をじっくり目に焼き付け、かたわらのエヴェシェ公園 Parc de l'Évêché のベンチに腰をおろしましょう。夏の夜には「クロマCHROMA」(7ページを参照)の光

|6|

のスクリーンで大聖堂が彩られるのを臨むこの場所は、優しい愛の告白にうってつけ。17世紀、イングランド王チャールズ1世の寵臣バッキンガム公が、時のフランス王妃アンヌ・ドートリッシュに情熱的に愛を伝えたのも、ここアミアンでした。体力に自信のあるおふたりは、307段の階段を登って大聖堂の塔の上へどうぞ。息を切らして昇った自分たちへのご褒美に、第7天国に近いこの場所で、愛し合うふたりのセルフィーを撮影されてはいかがでしょう。

石畳の通りをそぞろ歩き、川べりでグラスを傾け、ドダーヌ橋 Pont de la Dodane で不意の口づけを交わす、サン=ルー Saint-Leu (9ページを参照)の甘いひととき。とはいえ愛と新鮮な水だけでは生きていないのが人間というもの。「ル・ケLe Quai」(13 ページを参照)は、料理、サービス、景色の点がとりわけおすすめのレストランです。すぐ隣には、わいわいと和やかに食事ができるレストラン、「ポール・サン・ルー Port Saint-Leu」もあります。

さて、お次は小ヴェニスへ繰り出します。ボートを借り、オルティヨナージュが綾なす植物の迷路へ冒険に繰り出すもよし(17 ページ参照)、船頭さんに導かれ、のんびりと心安らかに水上散策するもよし(ただし、ヴェニスの船頭さんのように歌はうたいません。もしかすると、ピカルディー方言でうたってくれるかも?)。神秘的な島々、緑あふれびと園、野生の動植物の営み。時間を忘れ、人びきは、ふたりにとって、とても忘れられないものとない。かりにとって、とても忘れられないものとなるでしょう。水辺は苦手とおっしゃる方は、マドレーヌ墓地 Cimetière de la Madeleine へどうぞ(9 ページ参照)。樹々が生い茂る丘は、詩的で、ときに幻想的。とてもロマンチックなムードがおふたりを魅了することでしょう。



PARC DE L'ÉVÊCHÉ エヴェシェ公園

光の庭

壮大なプロジェクションマッピング「クロマ」を鑑賞した後は、すぐ隣のエヴェシェ公園を巡って、ヒューマンスケールなイリュミネーション「光の庭 Jardin des lumières」をお楽しみください。ノートルダム大聖堂が歩んだ壮大な歴史物語は、大聖堂に暮らす摩訶不思議な住人、キメラたちによる奇想天な物語に取って代わられます。現実を忘れる夢のような旅です。

→ アミアン、アートと歴史の都 夏季の毎晩、クロマ終了後

Amiens, Métropole d'art et d'histoire

+ 33 (0)3 22 22 58 90 patrimoine@amiens-metropole.com visit-amiens.com/chroma



[7]





シルク・ジュール・ヴェルヌ LE CIRQUE JULES VERNE

フランスに現存する最後の「常設の」サーカスのひと つ。1889年にオープンした当時の木造の建物は、座 席数が3000席あり、フランスの地方最大のサーカス と言われました。2003年に全面改装され、19世紀の 開業当時に最も熱狂的な支持者であった作家、ジュ ール・ヴェルヌの名前が付けられました。この美しい 建物は、最も名高いサーカス一家を迎えたショーの 会場となり、フェデリコ・フェリーニやジャン=ジャッ ク・ベネックスといった偉大な映画監督によって撮影 場所として選ばれてきました。エミール・リキエが設 計したその金属建築と、現代芸術家エルンスト・カラ メレによるペイント装飾は極上のカップリングと言 わざるを得ません。ぜひシルク・ジュール・ヴェルヌ を訪れ、世界の名だたる一座や未来の偉大なアーテ ィストによる多彩なプログラム(サーカス、大道芸、 乗馬ショー、音楽...)に胸躍らすひとときをお過ごし ください。

→ シルク・ジュール・ヴェルヌ

Jules Verne Circus

Place Longueville - + 33 (0)3 22 35 40 41 cirqueiulesverne.fr



マドレーヌ墓地 LE CIMETIÈRE DE LA MADELEINE

アミアンのペール=ラシェーズ墓地と呼ぶにふさわしいマドレーヌ墓地。1796年に造られたこの墓地は、ロマンティックな公園の景観をなし、フランスの美しい墓地のひとつに数えられています。18ヘクタールを超える広大な敷地の遊歩道には、目にも美しい樹々が立ち並び、わたしたちを散策や園内の探検へといざないます。アミアンの名家の墓所であるここは、19世紀の町の繁栄を今に伝えてくれます。3月から10月は、マドレーヌ墓地の遊歩道を有資格のガイドと一緒に散策することもできます。

→ アミアン、アートと歴史の都

Amiens, Métropole d'art et d'histoire

+ 33 (0)3 22 22 58 90 patrimoine@amiens-metropole.com



風情あるサン=ルー地区 PITTORESQUE QUARTIER SAINT-LEU

中世、サン・ルー地区の小さな通りにはソンム川の流れを利用した25の水車小屋があり、働く人びとの賑やかな音が響き渡っていました。粉挽き、染めもの、機織りに携わる職人たちは、それぞれ忙しく、穀物を挽き、ウォードの葉をすりつぶし、織機の踏木を漕いでいたのです。



ジュール・ヴェルヌの家 LA MAISON DE JULES VERNE

「塔のある家」と呼ばれる 19 世紀の大邸宅。ジュール・ヴェルヌが 18 年間暮らし、叢書〈驚異の旅〉収録作品の大半を執筆したこの 場所で、作家の空想世界と日常生活を発見されてください。700点を 超える展示物を前に、ジュール・ヴェルヌの個性、その創造の源、記憶が呼び覚まされ、ヴェルヌ自身、あるいは彼の担当編集者、彼の妻、はたまたヴェルヌ作品の登場人物であるパスパルトゥーやアウダ王女、「世界の支配者」と呼ばれることを好んだ征服王ロビュールらと一緒にこの家を巡るひとときは、この上なく素晴らしいものです。

→ ジュール・ヴェルヌの家

La Maison de Jules Verne

2 rue Charles Dubois (corner of Bd J. Verne)

+ 33 (0)3 22 45 45 75

amiens.fr/maisondejulesverne



パルクール・アロナックス LE PARCOURS ARONNAX

ジュール・ヴェルヌの『海底二万里』の語り手である海洋生物学 者、ピエール・アロナックスにちなんで名付けられた、パルクール・ アロナックス Parcours Aronnax 。ヴェルヌの創造力と想像力 に捧げられた18の場所 (ステージ) を巡り、アミアンの中心部から 80kmの街ル・クロトワ Le Crotoy まで横断する散策ルートです。 文学、観光、文化の旅路であり、家族連れにも優しく、多くのひと にアクセスしやすいパルクール・アロナックス。各ステージの案内 板 (フランス語/英語) からQR コードを読み取ることで、没入型 の動画、俳優が朗読したヴェルヌ小説の抜粋、お子さま向けのク イズやさまざまなサプライズを体験できます。1856 年 5 月、ジュ ール・ヴェルヌが未来の妻オノリーヌ・デヴィアンと出会ったのは、 彼女の故郷アミアンでした。そして彼はこの街を深く知るようにな り、1871年に住むことを決意するのです。単に住人であるだけでな く、身も心も街に親しんだヴェルヌは、アミアン・アカデミーを含む 地元のさまざまな協会や機関の会員となりました。市議会議員も 16年間務めています。散策ルートを歩いて知るこの街のかげがえ ない暮らし。アミアンはジュール・ヴェルヌにインスピレーションを 与え、この街を舞台にしたいくつかの物語が生まれました。

→ amiens.fr/aronnax





ガイドと一緒に発見の旅へ...

私たちの知識豊富なガイドは、アミアンとその人々への情熱を心から共有することを愛している親切な人々です。レンゾ・ピアノによって再設計されたシタデルから、建設当時ヨーロッパで最も高い高層ビルだったペレタワーまで、中世のルーツからアールデコの宝石まで、この街の豊かな歴史を発見することができます。また、フランスの「芸術と歴史の街と土地」の文化的な宝を紹介しながら、近隣の魅力的な村々も案内します。

→ visit-amiens.com/guided-visits





鐘楼 LE BEFFROI

アミアンの鐘楼は、ノール・パ・ド・カレー地域ピカルディ地域の23の鐘楼とともに、「ベルギーとフランスの鐘楼群」の一部として、2005 年 7 月、ユネスコの世界遺産に登録されました。フィル広場 Place au fil に立つアミアンの鐘楼は、中世、アミアンのコミューン(住民共同体)が伯権力から勝ち取った市民の自由を象徴しています。この街の最初の市庁舎である鐘楼は、刑務所として使われた時代があったことでよく知られています。約100 段の階段を登った先のテラスでは、アミアン市街と18世紀の姿をたたえる鐘楼のパノラマを一望することができます。文化省認定のガイド講師が語る鐘楼の物語に、どうぞ耳を傾けてください。

→ Amiens, Métropole d'art et d'histoire

+ 33 (0)3 22 22 58 90

patrimoine@amiens-metropole.com



サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路 LES CHEMINS DE SAINT-JACQUES DE COMPOSTELLE

アミアンのノートルダム大聖堂とフォルヴィル 教会 Église de Folleville を隔てる約30 キロメートルの長距離ハイキングコース。 大聖堂と教会はともに、「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」の一部として 世界遺産に登録されています。 「しかし、古い過去から(中略) ただ匂と味だけは、かよわくはあるが、もっと根強く、もっと形なく、もっと消えずに、もっと忠実に、魂のように、ずっと長いあいだ残っていて、他のすべてのものの廃墟の上に、思いうかべ、待ちうけ、希望し、匂と味のほとんど感知されないほどのわずかなしずくの上に、たわむことなく支えるのだ、回想の巨大な建築を」。マルセル・プルースト『失われた時を求めて』第一篇スワン家の方へ、井上空一郎駅(ちくま文庫)

プルーストがこう言っていますが(わたしたちよりもずっとみごとに)、きっと皆さんもマドレーヌやマカロンを召し上がった経験があることでしょう。そして、旅には食べ物の思い出がつきものです。例えば、何が出てくるのかわからないまま注文した料理。例えば、何気ない小さなレストランで体験した天にも昇る喜び。あるいは、そこでしか堪能できない味と香りとの出合い。そんな、大脳辺縁系(感情と喜びを司る脳中枢です)に花火を打ち上げてくれる旅の滞在となるように、アミアンのありとあらゆる食をご紹介いたします。

今だけ&ここだけの味

アミアンのシェフたちは、地元の食材や季節の食材を使い、 その時にしか味わえない料理を提供しています。ファースト ネームを聞けば、どの野菜を扱う誰のことかわかるほど生 産者と密な関係を築くシェフ、「イアサント Hyacinthe 」の トマ・デュモン Thomas Dumont や、日々の収穫と同様に、無尽 蔵のインスピレーションによってメニューが変わる「アイユ・デ・ ウルス Ail des Ours 」のステファン・ブリュイエ Stéphane Bruyer 、そして、色彩豊かな料理で革新的な味を提供する「 アンスタンクト Instinct 」のシェフがまさにその好例。ほかの シェフたちも負けていません。「ロビン・ルーム Robin Room 」と「カフェ・ピンソンCafé Pinson」を切り盛りするクレール・ ショメイユ Claire Chaumeil は、決して精神論に陥らない、 いつも趣向を凝らした美味しい肉料理とベジタリアン料理の メニューを提案。マルゴ・セルヴォワジエ Margot Servoisier は、オルティヨナージュで採取された蜂蜜を使い、オーガニッ クやビーガンのペストリーをつくっています。

伝統&創意の味

ガトー・バチュ(ブリオッシュに似た郷土菓子)、鴨のパテ、アミアンのマカロンなど、アミアンにはぜひとも味わうべき名物がたくさんあり、滞在中、食事の席やさまざまな店でそれらを目にすることは間違いありません。例えば、フィセル・ピカルド(ハムやキノコやチーズをクレープで棒状に巻き包み生クリームとチーズをかけて焼いた料理)とフライドポテト。あるいは、アミアンのアンドゥイエット(豚や仔牛などの内臓を腸詰にしたソーセージ)。きっと、ご想像のアンドゥイエットとまったく違うことに驚かれるはずです。皆さんに発見されるのを待っている、豊かでおいしい名物料理とぜひ出合われてください。アミアンの職人たちの多くは、伝統の継承に力を注ぎながら、

新たな価値の創造に取り組んでいます。ジュリアン・プランショ ン Julien Planchon は、鐘楼近くの常設市場レアール・デュ・ ベフロワ Les Halles du Beffroi (15ページを参照)で、彼 が考案したトリコルヌ・ド・ピカルディ Tricorne de Picardie (ハウスビールで熟成させた生乳チーズ)、厚岸草(シーアス パラガス)入りのトムチーズ、行者にんにく風味のバターなど を販売。そのすぐ隣には、鴨のパテの殿堂の守護者であり、 つなぎのパン粉に地元の名物ガトー・バチュを用いたブー ダン・ブラン (豚と鶏をベースにした白いソーセージ) や、ト ム・オ・フォワン(ピカルディー地方名物、干し草のなかで熟成 させたトムチーズ) を混ぜこんだ昔ながらのポークソーセージ の開発者である、ダニエル・エリプレ Daniel Héripré が います。ジャン・トロニュー Jean Trogneux のアミアンの マカロンもぜひご賞味を。きっと甘い喜びでとろけることで しょう。ノートルダム大聖堂が壮観なトロニューのテラスで、ぜ ひこのアーモンド風味の小さく柔らかな焼き菓子をご堪能く ださい。刺激的なネーミングと個性豊かな味わいのビールで 地域伝統のビール醸造を復活させている「ベアーズ・タバーン Bears'Tavern」「アンビアーニ Ambiani」「シャルル・エ・ヴィアネ Charles & Vianney」もどうぞお忘れなく。

洗練された豊かな味わい

アミアンの美食を誰よりも体現する「レ・オルフェーヴル Les Orfèvres 」のフレデリック・パレット Frédéric Barette と、「ローベルガルド L'Aubergade 」のエリック・ブーテ Eric Boutté 。独自のスタイルによる精緻な、そして独創的な料理を手がけるふたりのシェフは、わたしたちを驚かせるべく、そして、方や「燻製鱈の濃厚ラビオリ」、方や「フォワグラベースの伝統ファルシを巻き重ねた真のロールキャベツ」という自慢の定番料理をわたしたちに提供すべく全力を尽くしています。また、美食界の重鎮たちから薫陶を受けた「ル・ケ」のニコラ・メドクール Nicolas Medkour は、カジュアルさと上質が融合するビストロノミーからハイエンドな美食に至るまで、あらゆる分野の料理に優れたシェフです。

このほか、ぜひ押さえておくべき味わいと香り豊かなアミアンの思い出は?...はい!たくさんあります。「シェ・ジュール Chez Jules 」「レ・ブーシェ・ドゥーブル Les Bouchées doubles 」「オルロージュ Horloge 」「ラ・クーポール La Coupole 」といったブラッスリーに、「カプチーノ Capuccino」などのビストロ、「プティ・デリス・アントル・アミ Petits délices entre amis 」といった食堂も忘れてはいけません。おいしい思い出を後から振り返っても体重を増やすことはありませんので、どうぞご安心を。

地元の愛されレストラン

アミアンのアール・ド・ヴィーヴル(生活芸術)は良質な食材によって具現化され、土地に愛着を持ち、創意工夫に富む寛大なシェフのみごとな手仕事によって昇華されます。このページでは、アミアンの選りすぐりのレストランをご紹介いたします(サーヴィス詳細は、どうぞ amiens-tourisme.com/les-restaurants をご覧ください。)

レ・ゾルフェーヴル LES ORFÈVRES

大聖堂のすぐ近くにあるガストロノミーレストラン「レ・オルフェーヴル」。居心地の良い空間と、食通をうならせる繊細な料理を提供しています。

→ 14 rue des Orfèvres, 80000 Amiens lesorfevres.com

LE QUAI

地元の住人にも観光客にも人気の「ル・ケ」は、歴史あるサン・ルー地区の中心部、ソンム川のほとりにあり、地元の名物料理をベースにした(それだけではありません!)

唯一無二の食体験をお楽しみいただけます。

→ 15 Quai Belu, 80000 Amiens restaurant-lequai.fr

A A T T

ただけます。

なのです。

bistrotlapena.fr

アイユ・デ・ズルス **AIL DES OURS**

大聖堂のすぐ近くにある

ンでグルメな質の高い料理を

提供。プラス情報:アミアンでもっ

とも素晴らしいブランチを召し上がってい

インスタンクト

わうたびに五感を目覚めさせてくれる場所

→ 44 rue Jean Catelas, 80000 Amiens

instinct-restaurant.fr

NSTINCT

創造性と素材への敬意を

重んじ、魅惑的な美食の

旅へといざなってくれる「

が正真正銘の芸術作品となり、味

アンスタンクト」。ここは、美食

→ 45 rue Robert de Luzarches.80000 Amiens

洗練されたレストラン。モダ

エレガントな設えにオー プンキッチンを備えた「アイ ユ・デ・ウルス」。質の高い旬の

食材をベースにしたインスピレーションあふれる直感的なメニューは、圧巻の豊かな風味を誇ります。

→ 11 rue Sire Firmin Leroux, 80000 Amiens <u>aildesours-restaurant.fr</u>



ローベルガルド L'AUBERGADE

アミアン郊外、デュリー Dury にある「 ローベルガルド」。ジョエル・ロブショ ンの厨房にいたシェフのエリック・ブーテ

は、フランス料理の大いなる伝統にのっとりながら、常に創造性を備えた美食、地元の食材をふんだんにつかった料理を提供しています。

→ 78 route nationale, 80480 Dury <u>aubergade-dury.com</u>



イアサント **HYACINTHE**

ここ「イアサント」ではすべてが新 鮮で、季節感があり、オーガニック な地元の食材を使用しています。シェ

フのトマ・デュモンが考えるこだわりの美食は、その繊細な盛り付けの料理に見てとることができます。

→ 11 rue Dusevel - 80000 Amiens restaurant-hyacinthe.fr

cinthe.fr プティ・デリス・アントル・アミ

PETITS DÉLICES ENTRE AMIS

アミアンっ子が通う、間違いなくおいしい食堂「プティ・デリス・アントル・アミ」。健康にも、お財布にも、そし

て心にも優しい(しかも地産地消)。ランチタイムのみ、店内のほか、テイクアウトもご利用いただけます。

→ 55 rue des Jacobins, 80000 Amiens +33 (0)6 75 93 20 16

地元の名品を 買いたい時は…



アミアンのマカロンとチョコレートがけした

Confiserie Trogneux コンフィズリー・トロニュー 5代続くショコラティエ。

+ 33 (0)3 22 71 17 17 troaneux.fr

ピカルディ地方の特産品

Les specialites de Quesnoy-le-Montant Maison Fréville

6 Rue des Vergeaux

+ 33 (0)3 22 40 15

3 rue de Beauvais + 33 (0)3 22 92 16 13

ピカルディのチース

(トム・オ・フォワン、トム・オ・シードル(シードルで洗ったウォッシュタイプのトムチーズ)、プレイ・ピカール・ア・ラ・グレーヌ・ド・ラン(白力でよって)のウリーミーなブレイチーズに亜麻仁をよぶした、穀物の香りと食感の豊かなチーズ)

Julien Planchon - Belfry Market Hall + 33 (0)3 22 91 96 22 Philippe Olivier - 21 rue de Metz

|12|

アミアンのアール・ド・ヴィーヴル





ガトー・バチュ LE GÂTEAU BATTU

ピカルディー名物、地元でお馴染みの伝統菓子ガトー・バチュ。卵とバターがふんだんに使われたケーキとブリオッシュの中間のような食べ物です。けれども伝統的なブリオッシュよりもふんわりとエアリーで柔らかく(!)、高さのある円筒形の型で焼かれるため、シェフの帽子のような形をしています。Instagramに写真をアップするのはお早めに。ガトー・バチュの寿命は、おやつの時間にあっという間に尽きてしまいます。

フィセル・ピカルド LA FICELLE PICARDE

フランス人なら誰もが知っている(と思い込んでいる)ピカルディー・グルメのクラシカルなひと品、フィセル・ピカルド。クレープにスライスハム、炒め合わせたきのことエシャロットを棒状に巻き包み、グラタン状に焼いた料理です。フィセル・ピカルド協会はこの料理を守るため厳しい目を光らせていますが、それを物ともせず、反骨精神があるアミアンっ子のシェフはフィセル・ピカルドの新たな解釈に挑んでいます。とはいえ、ご注意!越えてはならない一線は守ります。それはベシャメルソースを使わないこと。(正真正銘の)フィセル・ピカルドは生クリームを使うのが決まりなのです。

アミアンの鴨のパテ LE PÂTÉ DE CANARD D'AMIENS

アミアンの鴨のパテは1643年に誕生しました。この味わい豊かな名物料理は、パテ・アン・クルートと呼ばれるパテをパイ包み焼き形で供され、その伝統的な調理は、一握りの情熱的な職人によって受け継がれてきました。口の中でとろける美味しさのパテは、オルティヨナージュで収穫された野菜のプチサラダと一緒にグルメな前菜としていただくか、またはシックなピクニックのひと品としてテイクアウトするものいいでしょう。



© AS Flament

アミアンのマカロン LE MACARON D'AMIENS

アミアンのマカロンは、16世紀から知られるピカルディ地方の名物菓子です。アーモンド、砂糖、卵、蜂蜜をベースにした伝統的なレシピが特徴であり、人工着色料は一切使用していません(つまり、パリのマカロンとは何の関係もありません)。同じく名物のチョコレートをかけたチュイルクッキーと並んでやみつきになるこの小さな焼き菓子は、大聖堂の足元で楽しむコーヒーブレイクにぴったりのお供です。

レ・アール・デュ・ベフロワ アミアンの美食に出合える 屋内市場

LES HALLES DU BEFFROI

街のなかにある村、と呼ぶのがふさわしいレアール・デュ・ベフロワは、高品質の生鮮食品で知られる屋内市場です。チーズの生産者、パン屋、パティシエ、野菜の生産者、シャルキュトリ(加工肉)の生産者、肉屋、魚屋、惣菜屋、ワイン商など、地元の伝統と味覚を世に知らしめる名高い業者がひしめいています。地元の名物や特産品に彩られた食卓を整えるのに必要なものは、もちろんここですべて見つかりますし、よその地域からの名物や特産品も手にいれることができます。

→ 火曜~土曜のランチタイム



イル・オ・フリュイ L'ÎLE AUX FRUITS

「果物/実りの島」を意味するイル・オ・フリュイ Île aux fruits は、ソンム川に点在する島のひとつにある、アミアンのオーガニックガーデンファームです。ここでは、持続可能な農業をもとに持続可能な文化を築くパーマカルチャーを基本原則として、果物や野菜が栽培されています。毎週木曜の晩には、地元の生産者とその生産物や製品、地元の職人とその作品が一堂に会するマルシェ、現地の音楽家によるコンサートを開催。アミアンのアール・ド・ヴィーヴルがいかにフレンドリーなものかが伝わってきます。

→ **L'île aux fruits** イル・オ・フリュイ 325 rue de Verdun ile-aux-fruits.fr



水辺のマルシェ MARCHÉ AU BORD DE L'EAU

木陰で気さくな地元の生産者たちに会い、気がつけば、買い物かごは品物であふれんばかりに。果物や野菜(もちろんオルティヨナージュで収穫されたもの)のみならず、「シェ・メメChez Mémé」のパンやジャム、地ビールとそれに合うチーズ、甘党さん向けには蜂蜜にパンデピス(スパイスケーキ)、ビストゥー(じゃがいもパテのパイ包み焼き)、フィセル・ピカルド、ヴィムウ Vimeu 産のカタツムリ、そして穀類と亜麻仁を食べ藁で飼育されたピカルディ産の豚肉ポーク・ダンタンなどなど…これぞ人生!

→ サン・ルー地区で土曜8時から13時まで

毎週土曜日の朝、鐘楼近くのレオン・ブルム通り Rue Léon Blumに立つマルシェにもぜひお出かけください。

アミアン観光局では、2021年に選出された世界一のチーズ職人による、地元産チーズとスイーツ(ジャムや甘いタルト)、地元産の飲料(ビール、ワイン、リンゴジュース)のテイスティングのワークショップを開催しています(団体向け)。

詳細は観光局までお問い合わせください。



ビール、ワイン、スピリッツ! BIÈRES, VINS ET SPIRITUEUX!

「ラフルール Lafleur」「ベアメイド Bear'maid」「ブランシュ・ダミアン Blanche d'Amiens」…これらはいずれもストリーがあり、唯一無二の個性きわだつアミアンのクラフトビールの名前です。ところで、ソンム川流域でワインを生産していることはご存知でしょうか。ぶどう園「クール・ド・ベレニース Cour de Bérénice」で採れるシャルドネやピノ・ノワールのワイン、ワイン共同生産組合「レ・サントラント Les 130」の最新作である白ワイン「パラレル50 Parallèle 50」などです。今後数年のうちにトレンドになりそうなこれらのワインをぜひ味わってください。ピカルディー地方で栽培された大麦を原料とし、農産物コンクール(コンクール・ジェネラル・アグリコル)でメダルを受賞した、フランス北部オートフイユ Hautefeuille 産のウイスキーとジンは、スピリッツ愛好家の舌を満足させてくれることでしょう。

地元産のワイン、ジン、ウイスキーを味わい、発見するワークショップに参加されてみませんか。詳細は観光案内所にお問い合わせください。

アルコール乱用は健康に害を及ぼす可能性があります。

|14|

| 15 |

小さな幸せ…そして低炭素

わたしたちは外出を禁止される生活を体験しました。 気候が悪化するのを見てきました。そしてデジタル技 術はわたしたちからほとんどすべてを奪ってしまいまし た。だからわたしたちは、他のものを熱望するようにな ったのです。シンプルなものを、本物を。ありのままの自 然を、人びととの真の出会いを。そんな情緒豊かで低 炭素な体験を実感できる場所、それがアミアンです。

キャンプサイト「キャンピング・デ・シーニュCamping des Cygnes」、あるいはオルティヨナージュ(13ページ)にある島々の小屋に滞在されてみませんか。アミアンはいたるところに水があり、ボートやカヤック、自転車、あるいはシンプルに徒歩で、夢想にふけり、散策を楽しみ、ハイキングをするのに最適の場所です。いざ、300ヘクタールに及ぶ水上の庭園、オルティヨナージュの全貌に迫るべく冒険に、あるいは、あなたを正しく導いてくれるオルティヨンの案内で散策に繰り出しましょう。

自然はまた、思いがけないところにも存在しています。歴史好きな薬学博士、サビーヌ・ロバン Sabine Robinと一緒に、街のそこかしこでわたしたちを取り巻く植物たち、その薬効や伝説を発見しに出かけてみませんか。

そればかりか、アミアンの街のあらゆる庭園が、あなたに物語を聞かせたくてうずうずしています。サン・タシュールの考古学庭園 Jardin archéologique de Saint-Acheul では人間性について、植物園 Jardin des Plantes では無限の多様性とその用途について、オトワ公園 Parcs de la Hotoie とサン・ピエール公園 Parc de Saint-Pierre ではフランスで最も緑豊かな都市のひとつアミアンに暮らすことの甘美さについて。この街では墓地でさえも庭園です。樹々に囲まれた遊歩道に迷い込んだあなたを迎えるのは、20世紀初頭に生まれたバンドデシネ(漫画)『ベカシーヌ』のヒロインの生みの親に、小説『八十日間世界一周』の主人公フィリアス・フォッグの生みの親。ちょっぴり運がよければ、リスたちにも出会えるかも。

動物については、アミアンメトロポール動物園 Parc Zoologique d'Amiens Métropole の7 ヘクタールの水と緑、穏やさ、自然、そして生物多様性の保全と促進がなされた良好な環境で、700頭の仲間たちが暮らしています。クルーズの森 Forêt de Creuse の端にある農場、フェルム・ダンタン Ferme d'Antan の動物たちの顔ぶれは、前述の動物園のスターであるアシカに比べると古風な印象ですが、可愛らしさでは負けていません。ここでは農場スタッフの案内で、農村の伝統について知ったり、

パンやバターの作り方を学んだりすることもできるなど、いいこと尽くしです。

アミアンのヒーローたちは、マントをつけていませ ん。彼らは野菜を育てています。もし、そんなヒーロー たちに直接会ってみたいならば、どうぞアミアン近郊 のリヴリにあるオルティヨナージュ博物館 Musée des Hortillonnages をお訪ねください。博物館の 設立に心血を注いだテレーズとルネ・ノヴァク夫妻 Thérèse et René Novack がいます。金曜の宵は、 すぐ近くのオルティヨン・ドゥ・リュヌ Hortillon de Lune のマルシェへ。土曜の朝は、古代から続く伝統 の「水上マルシェ」へ。オルティヨンたちが舳先の尖 った平底のボートに野菜を積んでソンム川を下って 来ます。ここでは、若きパン職人の作る昔ながらの パン、饒舌なシャルキュトリ職人が作るフィセル・ ピカルド、お茶目な農場主が作る鴨のパテ、有機野 菜の生産者とさまざまな美しい野菜、チーズや蜂蜜、 りんごやシードルなどが見つかります。この水上マル シェではまた、新鮮な地元の食材を使う大勢のシェ フたちとすれ違うことでしょう。

アミアンから自転車で少し足を伸ばすと、ピキニーの水門管理者の家 Maison éclusière de Picquigny があります。ソンム川と城の息を呑むような景色をお楽しみいただける居心地のよいテラスに、友人として歓迎されることでしょう。どうぞ時間に追われることのない、穏やかな時間を謳歌されてください。ニエーヴル・エ・ソンム観光案内所 Office de Tourisme Nièvre et Somme の電動ボートに乗り込み、地元の特産の試食を挟みつつ、流れに沿って水上の散歩に繰り出されてください。

食べられない(そして80のコンテナに入れられて世界一周をしたことのない)お土産としては、ピカルディー美術館で、ウォード(中世にアミアンの富を築いた染料植物)で染めたスカーフや、アミアンの記念物が描かれた「サヴォヌリ・デ・オー・ド・フランス Savonnerie des Hauts-de-France」の石鹸を入手することができます。でも、皆さんが家に持ち帰るものは、もっと尊いものです。それは、自然と人びとに敬意を払い、ひと味違う旅を楽しんだという確信(そして、間違いなくもう一度同じことをしたいという願望)です。



|16|

自然に還る旅 NATURALLY FRIENDLY



国際庭園フェスティバル - オル ティヨナージュ・アミアン **FESTIVAL INTERNATIONAL DE JARDINS - HORTILLONNAGES AMIENS**

5月から10月

5月から開催される国際ガーデンフェスティバルで、アミアン の街をモザイク装飾のように彩るオルティヨナージュのひと 味違う魅力を発見されてください。電動ボートに乗り、彫刻 物や風景が織りなす驚きの、ときに神秘的な世界を見つけ にでかけましょう。船頭さんにボートを小島に停泊してもらい、 作品を鑑賞する、大自然の宝探しをお楽しみください。 驚きに胸が躍り、話しに花が咲き、笑いに満ちた冒険のひと ときになること請け合いです。

→ visit-amiens.com/hortillonnages



市内の自転車散策路 LA VÉLOROUTE AU CŒUR **DE LA VILLE**

ソンム川流域の散策を楽しむならば、「シュマン・デュ・アラージ ュ. Chemin du Halage」と呼ばれる水路に沿ったルートがシン プルでおすすめです。歩行者とサイクリストのための穏やかな散 策路であらゆる観光名所、ソンム渓谷の豊かな自然と文化を発見 されてください。西へ向かってペダルを漕げばソンム湾 Baie de Somme まで、東は自転車散策路「ヴェロルート・ドゥ・ラ・メモワール Véloroute de la Mémoire」を経由してソンム川の源流まで遡 ることができます。

→ visit-somme.com/ride-bike



アミアンへのアクセス





車でお越しの場合

出発地	経由	距離
ボーヴェ Beauvais	A16	61 km
ブリュッセル Brussels	A2, A1 et A29	225 km
カレー Calais	A16	159 km
リール Lille	A1 et A29	180 km
パリ、ポルト・ド・ラ・シャペル	A16	142 km



パリ (1時間30分) リール (1時間20分) ロンドン (2時間30分)

BY TGV (TGV オート=ピカルディー駅 **GARE TGV HAUTE-PICARDIE)**

ロワシー Roissy (20分) ナント Nantes (4時間) マルセイユ Marseille (5時間30分)



➡♥ 飛行機でお越しの場合

ロワシー=シャルル・ド・ゴール国際空港 Aéroport international Roissy

パリ=ボーヴェ空港 Aéroport Paris-Beauvais (30分 リール=レスカン空港 Lille-Lesquin (1時間30分)

















